

尚絅学院大学

学長

教授・博士 佐々木 公明 殿

宮城県名取市ゆりが丘4-10-1

981-1295

ベルリン 2009年4月6日

### 服部英太郎教授(1899-1965)および服部文男教授(1923-2007)の学術文庫鑑定書

尊敬する佐々木教授

貴殿が、二人の傑出した日本人知識人の遺文庫を、貴学で引き取られるご意向をお持ちであることは、私にとってたいへん大きな喜びであります。これらの私文庫が貴学に受け入れられることは、服部英太郎、文男両氏にとって名誉なことであるだけでなく、貴学附属図書館が19、20世紀の人文諸科学文献の宝庫を入手することを意味します。服部私文庫が保存される必要があるのは、(1)この文庫は、学術文庫で、(2) (独、仏、英、露の文献からなる)国際的文庫、(3) (哲学、経済学、社会科学、労働運動史など)テーマ性のある文庫、(4) (19、20世紀の諸々の初版を有する)書誌性のある文庫、そして(5)西洋およびロシアの著名学者を包括する文庫であるからです。

最初に、二人の学者の略歴について述べさせていただきます。服部英太郎は、1923年に東北帝国大学法文学部が創設されたとき助教授でありました。担当は社会政策および社会運動史(労働運動史)であり、1928年に令弟服部英二郎(1905-1986)の協力を得てマルクスの学位論文を翻訳し、改造社版『マルクス＝エンゲルス全集』第1巻に収録されました。1930-1932年に、妻と共に服部英太郎は、ドイツに留学することになりました。当地で彼は、カール・コルシュ教授らと出会い、ドイツ労働運動内部のさまざまな政治的潮流を知ることができました。服部英太郎は、1942年に大学を追われ、治安維持法違反の廉で逮捕されます。1945年まで彼は警察の監視下に置かれました。1948年東北大学に復職し、経済学部長等を歴任、1963年には福島大学長に就任します。

彼の息子である服部文男は1945年までは諸々の政治的事情のもとで、普通の人生を送ることはできませんでした。服部文男は、1948年以後初めて大学教育を受けることができ、大学人としてのキャリアに踏み込む可能性を得ることになります。服部文男

は、最終的には1958年から1986年まで仙台の東北大学経済学部の教授として教育に携わりました。空想的社会主義者(サン・シモン)にはじまり、ドイツおよびロシアの社会民主主義者に至る経済学史の研究に取り組んだことで、非常に多数の研究結果が生まれました。特に注目すべきは、彼が主宰していたカール・マルクスの『資本論』や『ドイツ・イデオロギー』、マルクス／エンゲルスの初期著作それにレーニンの『国家と革命』に関する大学院のゼミナールです。同様に服部文男がマルクスのいくつかの著作を、初めて、ないしは新たに、日本語に訳出したことも特筆すべきです。こうした研究やゼミナールとの関連で、彼は父親の文庫をさらに充実させ、重点的にいっそう専門的なものにすることができたのでした。

既に序論的に述べていますが、服部私文庫はもろもろの人文諸科学文献の卓越したコレクションです。大村教授とその同僚が集成した西洋文献コレクションには、1917年までの書物が221点、以後1933年までの文献が1200超、1945年以後1990年までの文献が約1000点収録されています。

19世紀の文献に含まれるものでとりわけ特筆すべきは、ドイツ人哲学者、Ludwig Feuerbach および Arnold Rugeの、また英国人経済学者、Thomas Tooke、そしてフランス人初期社会主義者、Theodore Dezamy、ドイツ人政論家、Ferdinand Lassalle および Eugen Dühringの著作です。またKarl Rodbertusの著作コレクションも特筆すべきです。

1933年までの書籍コレクションには、August Bebel, Karl Kautsky, Eduard Bernstein, Franz Mehring, Karl Renner, Friedrich Adler および Carl Grünberg などのドイツおよびオーストリアの社会民主主義者の著作が含まれます。この時期に属する著作については、無類の、古書店でも滅多に手に入らない非常に多くの書籍があります。このことは、社会民主主義者の文献以外でも、哲学者(例えば、Fichte, Hegel など)や哲学史、並びに政治経済学関連の文献についても当てはまります。これらの著作のなかには、Franz MehringやDavid Rjazanovによってカール・マルクスの遺稿から刊行されることになったもろもろの初版や論文集が含まれます。

同様に、1933年以前のコレクションには、イギリスの歴史家G. D. H. ColeやJ. Ramsay McDonaldの、またアメリカ合衆国の社会学者Thorstein Veblenの著作が含まれています。ほかにも、ドイツ語の翻訳書で、重要なロシア人作家のものとして、Lenin, Trotzki, Bogdanov, Radek, Bucharin, Varga等々の作品があります。総じて、この時期に由来するもろもろの書籍は、比類なきコレクションの一つであるといえます。

このコレクションは、例えば、カール・メンガー（一橋大学所蔵）や櫛田民蔵（東北大学所蔵）のコレクションよりも広範囲でありかつ多様なのです。

戦後文献もまた国際的に著名な学者の書籍によって特徴付けられます。Joan Robinson, Ronald Meek, Maurice Dobb, Joseph Schumpeterの著作、マルクス主義学者Georg Lukacs, Jürgen Kuczynski, Auguste Cornuの著作、フランス人歴史家、Georges Lefebvreフランスの初期社会主義者Charles Fourier等々の著作がそうです。このコレクションは政治的ないしは哲学的な方面に片寄ったものではありません、それぞれの時代の西洋の学術的論議の一断面を提供していることによって傑出しているのです。このことはとりわけ、1990年までの2つのドイツ（西独と東独）文献に当てはまります。

目録に収められた約900冊のロシア語タイトルは、とりわけ戦後期に由来する古典的文献、ロシア史、哲学、基礎的辞典類です。Plechanov, LeninおよびStalinなどの党指導者の著作と並んで、1950, 60年代のソビエト・マルクス主義哲学や経済学文献が特筆すべきです。これらのコレクションは、旧ソ連邦における哲学的思考の発展並びにスターリン主義批判発展の研究のための基盤となりうるものです。

以上から、私は、このコレクションが貴学附属図書館に収蔵されることを大いに推奨させていただきます。またこれらのコレクションが、哲学史や経済学の、マルクス主義思想家の、並びにスターリン主義やその他のドグマ的な思考様式批判のための学術的研究、そして学位論文作成のための研究に役立てられることを大いに願わずにはおれません。

敬具



教授・博士 ロルフ・ヘッカー  
社団法人ベルリンMEGA刊行促進協会・理事長